

企業名： コンドーテック

レポート名： KONDOTEC REPORT 2022

1、この会社が目指している将来の姿が理解できるか

「私達は未来を築く人材を育て、創意工夫と開拓の精神をもって企業活動を行うことにより、豊かな社会づくりに貢献します」というコンドーテックが掲げる企業理念の下で、社会インフラの充実への貢献によって安心安全な社会の実現を目指していることが明示されている。その中で、経営については、ESG（Environment, Social, Governance）の3分野それぞれでマテリアリティ（重点課題）をより具体性を持たせてリストアップし、それをESGの基本方針として明示している。また、マテリアリティの策定のプロセスにおいて、関連するSDGsの項目を選定し、そのSDGsの目標達成を目指していることが示されているほか、2021年にはSDGs推進室を新たに開設するなど、SDGs問題解決に対しての非常に積極的な意志が感じられた。また、マテリアリティに対する取り組み、解決策はP37以降の「環境・社会・ガバナンス」の章に表を使って具体的に細かく記されており、理念や目標だけでなく、実現していくプロセスまで理解できるものとなっている。ただ、細分化によってそれぞれのセグメントのつながりがわかりにくくなってしまい、よって企業理念などの大きな目標につながるような一貫性を感じ取るのが難しくなってしまうと感じた。

2、この会社の現在の競争優位性が理解できるか

報告書の「ビジネスモデル」の頁において、自社の強みを3分野（①仕入、②売り方、③供給先）に分けて示している。

①仕入れの強みについては、仕入先が多種多様であり、国内外から仕入れていることで特定の仕入先に仕入を依存していないことを強みとして挙げている。また、メーカー兼商社であることを活かした、販売先の声を取り入れた新商材の開拓を挙げている。

②売り方の強みについては、全店舗に倉庫を完備していることで即納体制を構築していること、商材知識力のある従業員による、地域に根差した商材の提案などを挙げている。

③供給先の強みについては、多様な業界、業種への販売を挙げ、特定の業界の景気に左右されにくいことを示している。

以上のように、3つの分野に分けて自社の優位性をわかりやすく示している。しかしながら、「事業活動報告」の頁の産業資材の項目の箇所で、リスクを示している部分に「現状、調達元の約90%が中国となっております。」という記述があり、仕入先の多様性については疑問を持たざるを得ないと思う。また、これらの優位性が同業他社と比べてどれほどの優位性を示しているのかがわかりにくいと感じた。業界内における自社の優位性を数値を用い

て示すと、より競争優位性を理解しやすくなるのではないかと感じた。

3、その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

KONDOTEC REPORT 2022 中にある代表取締役社長、近藤勝彦氏のメッセージの頁には、「時代の変遷の中でも必要とされる企業であり続けたい」と題して、SDGs への積極的な取り組みや、建設業界への女性進出を受けた、資材の軽量化への取り組みについて言及するなど、これからの社会の変遷に適切に対応し、企業の持続可能性が大いにあるということを示そうとしている。このことから、コンドートックは企業の持続可能性がどれほどであるか、ということに重要視し、それについてこの報告書を通じて十分に示しているといえる。

「事業活動報告」の頁では、今後の取り組みとして、海外のASEAN 地区におけるインフラ整備の増大など、具体的にこれから成長・拡大を目指している分野をわかりやすく示しており、また「成長戦略」の頁では、4つの成長戦略として①新規販売先の開拓、②新商材の提供、③売り方の工夫、④販売ルートの開拓、を挙げ、それぞれで写真やグラフを使いながら競争優位性を持続させていくための戦略、活動を明確に示している。

これらのことを踏まえると、コンドートックは競争優位性に持続性があるということを理解することができると思う。

4、この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できるかと思うか

「SOCIAL」の章の、「人材育成とダイバーシティ」という項目において、コンドートックの人材育成の方針について触れられている。そこでは、企業理念に則り、未来を築く人材育成のための教育プログラムを実施しているとの記述があり、若年層への研修に力を入れていることが示されている。また、資格取得費用の補助や通信教育制度を充実させており、有資格者の育成に努めていることがわかる。ただ、この項目において人的資本の価値向上を達成できるかどうかを判断しうる内容はこれのみであり、個性の尊重や公平採用についての内容が多かったため、自分がコンドートックに就職し、自分の人的資本の価値向上を達成できるかを判断することは難しかった。人資格を取ることができることは人的資本の価値向上であるが、具体的に社員が資格以外にどのような人的資本を得られているのかわからなかった。コンドートックに就職したときに自分の価値向上を達成できるかどうかをはかるには、ある社員が入社後どのように企業内でスキルアップしていったのかなどを具体例として示す必要があるように思う。

5、報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

全体を通してグラフや表、写真などを用い、色使いなども含めてとても見やすい報告書だと感じた。それぞれの章においては項目の分け方がわかりやすく、企業の伝えたいことがはっきりと伝わってきた。しかし、「環境・社会・ガバナンス」の章では分量がとても多く、前の章と被っている点が多く感じたので、もう少し簡潔にするとより見やすくなるのでは

ないかと思う。

また、将来予測に関して、特に良くない結果の想定がしっかりとされている印象を受け、この点が非常に良い点でと感じた。具体例としては「事業活動報告」の中の電設資材の項目で、少子化による住宅着工件数の減少を想定したうえで、リフォーム、メンテナンスの案件などの開拓に努めることを示しており、企業としてマイナスな点をどのように補っていくつもりなのかを示されていて、とても信頼性の高い報告書となっているように思う。

良い点で、項目の分け方がわかりやすいという点を挙げたが、改善点としては、「環境・社会・ガバナンス」の章では分量がとても多く、前の章と被っている点が多く感じた、という点が挙げられる。被っている項目に関してはもう少し簡潔にするとより見やすくなるのではないかと思う。

もう一つ改善点として挙げられるのは、4でも述べたが、人材育成に関する記述が少なかった、という点だ。この報告書は就職を考えている人に対しての配慮がやや欠けているように感じた。より内部の、職場環境や社員の具体的なキャリアの歩み方を例として挙げるなどする必要があるように感じる。これから就職を考える人は、人材育成という点を重視して企業を見ると思うし、人材育成は企業価値という観点から見ても非常に重要な項目であると感じるので、この点についての内容をもう少し盛り込むとよいと思う。

参考文献

コンドーテック株式会社 公式 HP KONDOTEC REPORT 2022

[統合報告書／アニュアルレポート | IR ライブラリー | 株主・投資家情報 | コンドーテック株式会社 \(kondotec.co.jp\)](#)